
伝説騎士*レジェンド†ナイト*

澪桜音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伝説騎士*レジエントナイト*

【Nコード】

N1053Z

【作者名】

澁桜音

【あらすじ】

気が利く不良、怪力の不良、動物・自然LOVEの怖面不良、フワフワ系の不良、超能力を持つ不良が貴女の悩みをなんでも解決してくれちゃいます。

金持ちと天才が集まるエリート校に通う、上から下まで不良の『秀才不良』と呼ばれる5人が繰り広げる、笑いあり、涙あり、感動あり、なんでもありのストーリー。

タイトル変更しました。

Legendo 千里の道もキャラ紹介から(前書き)

金持ちの不良が天才で、しかも人助けをしちゃうという妙なお話です笑

キャラ紹介から始めます。

是非お付き合いください) (

Legendo

千里の道もキャラ紹介から

＊キャラ紹介＊

名前：神川大地 かがわだいち

誕生日：6月12日（双子座）

血液型：O型

身長：175cm

体重：62kg

好きな言葉：World is mine

好きな異性：思いやりのある人

ニックネーム：かみちゃん

DATA：仕切るのが上手でいつも中心にいる。性格は明るい。左目の下の傷が怖い雰囲気醸し出しているが、実際は面白いことが大好きな男の子

名前：如月隼 きつきのはやし

誕生日：8月27日

血液型：A型

身長：177cm

体重：58kg

好きな言葉：Adel sitzt im Gemut , nicht im Geldut .

好きな異性：ノリのイイ人

ニックネーム：はつぴい

DATA：最強で最凶と恐れられる無敵のヤンキー。プライドが高い乙女座のA型だが、思いやりのある温かい人。喧嘩は当然強いが、勉強も全国模試5位と、かなりの天才。そして、怪力の持ち主。

名前：高嶺薫 たかねかおる

誕生日：7月30日（獅子座）

血液型：B型

身長：184cm

体重：68kg

好きな言葉：唯我独尊

好きな異性：スタイルのイイ人

ニックネーム：かおるん

DATA：有名生花店・TAKANEの社長の息子で、自然と動物をこよなく愛している。一見、タバコをくわえているように見えるが、未成年だし、副流煙のせいで周りの仲間や自然や動物に害を与えたくないため、ココアシガレットをくわえている。

名前：恋丸優樹 こいまるゆうき

誕生日：12月25日（山羊座）

血液型：O型

身長：162cm

体重：49kg

好きな言葉：HAPPY

好きな異性：可愛らしい人

ニックネーム：ゆつきー

DATA：明るく元気なフワフワ系男子で、男女関係なく同じように接することができ、友達も多い。偏差値75の天才。可愛いモノ（特にキティーちゃん）が大好きで、キティーさんと呼ぶ程。

名前：海江田風磨 かいえだふうま

誕生日：5月4日（牡牛座）

血液型：AB型

身長：158cm

体重：43kg

好きな言葉：吾輩は猫である

好きな異性：気が合う人

ニックネーム：ふっち

DATA：占い師で、癒し系キャラとして生きているが、正体不明。
透視が得意。タロット占い、相性占い、誕生日占い、姓名占い、血液型占いなどできる。

Legendo 千里の道もキャラ紹介から（後書き）

だいたいキャラのイメージを掴んでいただけたのなら幸いです。

では次からお話が始まります（*|*）

Legend 1 5人寄れば真珠の知恵(前書き)

プロローグという感覚でご覧ください。

意味がわかりにくいと思いますが、温かい目で見てください。

Legend 1 5人寄れば真珠の知恵

「かみちゃん！！ちよつと見てよ、今回の依頼！！」

「どうしたんだ、ゆつきー」

「ちよつとヤバいんだって！！ちよつとどころかかなり」

「は？」

パソコンの画面に映し出された文章。依頼内容らしいのだが……。

「私は慶麗学園高等部2年C組の幸村瞳ゆまむらひとみです。実は私、1ヶ月くらい前からヤクザに命を狙われているみたいなんです。迷惑メールが送られて来たり無言電話がかかってきたりして……。このままだと殺されてしまうかもしれません。助けてください。……か。確かに今までで一番ヤバいな」

「でしょ？しかも幸村瞳ゆまむらひとみって、僕のクラスの子なんだよ。だからなんとかしてあげたいんだけどさ……」

「何したんだよ、暗い顔して」

そこに、沈黙を破る荒々しい声をあげたのはかおるだった。

「実は今回の依頼がさ……」

ゆつきーが依頼内容を説明すると、荒々しい声がさらに大きくなつた。

「なんだと！！？その幸村瞳ゆまむらひとみって、俺の後輩のカノジヨなんだよ」

「長澤友明ながさわともあきでしょ」

「ああ、オメークラス一緒だっけ。つーかさ、相手がヤクザだったらこつちは日本一と唄われるヤンキー、如月隼を出せばいーんじゃねーの？」

かおるんの視線の先には、ソファアにだらし無く腰をかけてテレビを見ている男の姿があった。

「はっぴい、君の出番っばいんだけど、どうするよ？」

かみちゃんの問いに如月隼ことはっぴいは即答。

「んー、パス」

「ま、いつも通りやればいーんじゃないかな」

自分は関係ないというそぶりを見せるゆつきーにかみちゃんが一言。

「今回はお前に重要な役をやってもらうんだけど」

「えー!!?なんで!!?僕、ひとりでヤクザとドンパチやるのやだよ?」

「そーじゃなくて、幸村瞳と同じクラスなんだったら、情報収集するとか彼女をここに連れて来るとか」

「まー、そんならいなら……」

秀才不良の本部ははっぴいの家の部屋で、ハイテクな機械がたくさんある。

ま、如月財閥の息子のはっぴいにとって、このくらいどうってことない。

今までいくつも依頼を解決してきた5人だが、依頼内容は「迷子になったペットを探してほしい」とか「バイトをしてみたい」とか「恋を成就させたい」というような簡単なものばかりであった。しかし今回は違う。

一歩間違えば大事件へ繋がる可能性もあるのだ。

「これは、やるしかねーよな」

本気になってきたかみちゃんにゆつきーは口を尖らせる。

「えー、こーゆーのは警察に任せようよ」

「サツなんか信用できるわけねーだろ」

かおるんが溶けかけたココアシガレットをくわえながら言った。

「しかもさ、よく考えてみるよ。普通だったら俺らなんか頼まねーでサツに相談すんだろ。それが俺らを選んだってことは、それなりに理由があるんじゃないか?」

「ボクもそう思うよ」

かみちゃんの言葉を継いで小さいけれど存在感のある声を出したのは、ふっつちだった。

「さつきは幸村瞳サンのコトを透視してたんだけど、やっぱり何か大事にしたくない理由があるみたいだよ」

「理由ってなんだよ」

「それを調べて解決に導くのが、ボクらの仕事でしょ」

1年なのに堂々とした性格、大声は出したりしないのに存在感のあるオーラ。

地味そうで地味じゃないふつちに、3年のかおるんも舌を巻く。

「お、おう……」

「ま、とりあえず依頼は引き受けとくぜ」

カチカチ……と文章を打ち、Enterを押して送信。

「じゃ、明日の6時に幸村瞳をここに連れて来いよ、ゆつきー」

「う、うん」

わかりましたよー、という顔で部屋を出ていくゆつきー。

ボタン、という音と共にソファーに腰をかけたかみちゃんにかおるんが声をかけた。

「でもよ、ガチでヤクザとやることになったらどーすんだよ。はっ

ぴいもやる気ねーみてーだしよ」

「戦うことになっても、俺達が負けると思つか？」

スナック菓子の袋に入れかけた手を止めて、かおるんが尋ねる。

「なんでかみちゃんそんなにやる気なんだよ」

「この事件、何か深いワケがありそうだから……」

「深いワケ……？」

頭上にクエスチョンマークを浮かべるも、何かを察したようにそれ以上は声にださなかった。

Legend 1 5人寄れば真珠の知恵（後書き）

感想、ご意見お待ちしております。

あとで質問コーナーを設けますので、質問もどうぞ。

Legend 2

親しき仲にも悪戯あり（前書き）

翠月さんご感想ありがとうございます。

それではどうぞ

ゆつきーは、キティちゃんのハンカチで手を拭きながら本部に戻ってきた。

「あー、スッキリした〜。トイレ借りたよ。はっぴいん家のトイレ、凄く落ち着くねー」

が、案の定それに対するはっぴいの返事はなかった。

「もう9時か……」

ふと時計を見上げると、金の装飾が施された長針が12、銀の短針が9をさすところだった。

「今日はこの辺にしとくか。じゃ、はっぴい以外の4人でやるからゆつきー、忘れんなよ」

「大丈夫だつて」

「俺は喧嘩に備えて、少し鍛えとくか」

「楽しいコトになりそうな予感がするよ」

と、かみちゃん、ゆつきー、かおるん、ふつちが立ち上がったところで、腰の重かったはっぴいも立ち上がった。

「つつよし」

「えー!? はっぴいも来てくれんの?」

「ん、トイレ」

口が開きっぱなしの4人を尻目に、はっぴいは部屋を出ていった。

「なーんか嫌な予感が……」

ふつちがそう呟いた直後、はっぴいの悲鳴に近い叫びが響いた。

「まさか……」

4人がトイレへ駆け付けけると、その視界に呆然と立ち尽くすはっぴいの姿があった。

「はっぴい?」

声をかけるかみちゃんは、トイレから微かにもれて見えたピンクの光を見逃さなかった。

「やつぱり……」

振り向いた視線の先には、にんまりと笑うゆつきーの姿が。

「えへへー、どお、はっぴい？喜んでくれた？」

なんと、トイレ一面がキティちゃんで埋め尽くされていたのだ。

キティちゃんのピンクの服がkamiちゃんの目に見えたのだ。

「お、俺のトイレが……」

取り乱すはっぴい。

実ははっぴいは、ゆつきーにイタズラをされた時だけ、パニックに陥る。

ゆつきーのイタズラにはさすがに他の3人は慣れたのだが、何故かはっぴいだけは慣れず、いつもパニックってしまう。

壁に頭を打ち付け始めるが、いつものことなので、もう誰も相手にしない。

かおるんはキティちゃんだらけのトイレに入った。

「うおつ、キティさんだらけ！！だが、こんなにキティさんが見てたら恥ずかしくてズボンさげらんねーよな？」

冗談混じりにはっぴいを慰めるが、大理石の壁にキティちゃんを貼られた衝撃は大きかったらしい。

紫のオーラを放ったまま、ピンクのトイレへと消えていった。

「じゃ、僕はこの辺で」

そろりと忍び足で立ち去ろうとしたゆつきーは背後から視線を感じて足を止めた。

「ゆつきー、いい加減にしねーか。じゃねーと……」

にこやかに話していたかみちゃんの顔が一瞬にして変化した。

「どーなるかわかってんだろーなア」

恐怖の低音ボイスを耳にしても、慣れっこのゆつきーは平常心を保っている。

「はーい、じゃあねん」

キティちゃんのぬいぐるみを床の上にポンと置くと、猫のように軽やかに はっぴいの家を後にした。

「まったく、特にはつぴいにはイタズラすんなっていつてんのに」

「でも、それが彼の性格だから否定はできないよ。しかもいつもキティさんだから可愛くていいじゃない。ま、かおるんはうーこばかりだけどね」

「それ口に出さなくてもいいだろ！！！！！！！」

少し顔を赤くしながら、ふつちを軽く殴るかおるん。

「ま、アレだな。かおるんは下キャラだから」

かみちゃんが涼しげに言う。

「ってかまだ俺、この話で下ネタ言っただけでなくね！？何も言っただけでうちから読者の皆さんに下キャラだっと思われたくねーし、イメーシダウンじゃねーか！！！！！！」

吠えるかおるんに

「でもさ、下キャラっていう前提で突っ走ったほうが、楽じゃない？」

となだめるふつち。

「そーゆー問題じゃねーんだよ！！！！！！」

と、その時。

「うああああ！！！！！！」

まだパニックから解放されていないはつぴいの悲鳴が響いた。

「ど、どーした！？」

ゆつきーがいないのに、はつぴいがパニックなんて初めてのことであった。

「トイレトペーパーが、無え……………」

そんなことでもパニックのね……………。それはさておき。

「ここにちゃんとあるよ」

ふつちが足元を指差す。

「ナイス、ふつち！！行くぜ、はつぴい！！！！」

かみちゃんがトイレの中に投げ込んだ途端、再びはつぴいの悲鳴が。廊下は暗くてわからなかったのだが、明るいトイレの中ではハッキリと見えた。

薄ピンク色で、キティちゃんがプリントしてあるトイレレットペーパーのロールが。

Legend 2

親しき仲にも悪戯あり（後書き）

ご意見、ご感想お待ちしております。

5人の中で誰が好きとか教えていただけるとありがたいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1053z/>

伝説騎士*レジェンド†ナイト*

2011年12月18日01時54分発行